

(様式)

第 5 回かわにし市民会議 議事メモ

班	4 班「文化・歴史の活かし方」
コーディネーター	伊藤 伸
ナビゲーター	なし
説明担当者(自治体)	4 班部会員(増田、北田、小田、石田)、夢田
日時	2019 年 9 月 14 日(土) 13 時 00 分から 16 時 00 分
場所	川西役所地下 1 階 B02 会議室
その他	参加者数 18 名

趣旨・概要

4 班提案書(案)の説明
提案書についての意見交換

総括

コーディネーター総括

色んな所で市民会議をしているが、盛り上がった会議の一つであった。第 1 回目の参加者の自己紹介では、「文化・歴史」のテーマについて認識が薄い反応であったが、議論していくうちに参加者自身が川西の文化・歴史のよさを認識し、活発な議論が展開した。

提案項目のまとめ方では、まず『誇り、愛着、自慢できるまち』を上位の思いとして記載したあと、学ぶ、文化財、イベントの項目でまとめる。歩きたばこは、タイトルの表現の仕方を変えて、きれいなまちを作ることの中の一つの例えとして記述する。

具体的な内容では、子ども達に歴史や文化をどう伝えていくかでは、強制されても頭に入らないので、楽しそうだなと思える仕組みを考えていく必要がある。例えば、川西の漫画の本を使う、自由研究の例えに紹介する。併せて、小学校の地域学習の授業を地域の人がサポートできる仕組みがあればよい。

その他、新たなお土産を開発するより既存の商品をどう浸透させるか、情報発信の仕方
でフリーWi-Fi のログイン画面に表示、アプリの活用、将来的には自動車の走行中にマップで市の歴史がみられるようにする、ボランティアポイントの創設、市内にある青山大学との連携、川西ゆかりの人物や施設の掘り起こし、ミュージアムの整備とクラウドファンディングによる資金集め、看板の整備などの提案がでた。

市民が今まで以上に誇りや愛着をもち、自慢できるまちを目指し、この班で提案する「まちの宝物サポート隊」が結成され活動につながれば素晴らしい。

川西は『源氏発祥の地』というすごい歴史があり、『日本遺産』への申請を目指してはどうかという意見が参加者より提案され、全員が賛同した。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

協議の流れ

1 本日の会議内容について

5 回にわたり市民会議で議論してきたことや各回で記載した「改善提案シート」の内容をまとめ、そこから具体的な施策提案について部会員が追記して提案書(案)を作成した。

この提案書案の内容について、盛り込みたいところ、書きすぎているところの意見交換を行い、4班としての最終案をまとめる。

2 かわにし市民会議からの提案(案)について

・これまでの会議での議論と提案書の組み立てについて(コーディネーター

伊藤氏より説明)

提案1 市民が歴史や文化財に対して今まで以上に誇りや愛着をもち、市の歴史を自慢できるまちを目指す

提案2 市民が日常の中で川西の歴史や文化を「知る場」をつくり、かつ楽しく学べる環境をつくる

提案3 川西にある歴史・文化資源(多田神社、三ツ矢記念館、加茂遺跡、勝福寺古墳など)をより身近に感じられるよう活用の仕方を工夫する

提案4 他の市町村・企業等との連携や、市にある資源をつなぎ合わせてストーリーを作り上げることで、さらなる付加価値を付ける

提案5 源氏まつりを私たち市民が「市のお祭り」と感じられるように工夫する

提案6 川西をこれまで以上に「歴史・文化のまち」にしていくため、情報の伝え方や表示の仕方などを工夫する

提案7 歩きたばこなどのルール違反をしない、させない環境を作るなど、市民みんなで自分の住む地域を大切にする文化をつくる

提案1~3について

まず、大きな流れとして、この班だけでなく、『川西ってなかなか自慢できるところがない』という意見が他の班でもでた。

実は、4班のテーマの歴史、文化財で言えば魅力的なものがあり、もっと市民が市に愛着や誇りを持つためのいい資源が沢山ある。ただ、今までそれを魅力的に感じていなかったのは何故かと考えたところ、なかなか知る機会がなかったからという話がでた。かといって、ただ単に歴史文化を知りましょうと言ってもハードルが高くなってしまうので、楽しく学べる環境づくりや、知る場を作りつつも身近に感じられるようにしていく工夫が必要ではないかという話が展開した。

提案4について

1~3は主に中(市民)に対する提案であるが、そこから、さらに外に広げていく観点では、他の市町村や企業とのつながりであったり、一つ一つの資源だけを考えるのではなく、資源全体にストーリーを作っていくことで、より魅力的なものになるのではないかという議論が展開した。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

提案5について

源氏はこの会議の象徴であり、源氏祭りに対しては色々な意見もあるが、最も多かった意見に『市の祭りとして感じられる工夫をしていこう』という意見があったので、項目だてしている。

提案6について

情報の伝え方については、非常に沢山の意見が出た。情報発信を工夫しなければいけないこともあったし、案内表示といったところを見やすくすることによって、皆が文化歴史についてどんどん感じられるようにしようという意見があった。

提案7について

歴史というよりは文化というところで、歩きたばこについて書いている。

- ・ 提案書(案)の内容について(コーディネーター 伊藤氏、部会員より説明)
詳細は提案書(案)のとおり

- ・ 提案書(案)についての意見交換

提案書の項目だてについて

参) 項目数が多いように思うので、もっと分かりやすいようにした方がよいと思う。

(案) 提案1はこの班の全体にかかる目的として掲げるのはどうか。

(案) 提案1と(案)提案2の内容を統合して『学ぶ』という項目としてはどうか。

(案) 提案3は『文化財』についての項目。

(案) 提案5の源氏祭りはピンポイントすぎると思う。項目としてたてるのではなく、他の項目と統合してはどうか。

(案) 提案6は『学ぶ』『文化財』『イベント』すべてにかかる『情報発信』であると思う。

(案) 提案7『歩きたばこ』は、重要だと思うが、唐突に出てくる感じがする。きれいな街を考える中で、歩きたばこの取組を記載する方がきれいにまとまるのではないか。

整理すると、大きな目的として誇り、愛着、自慢できるまちを目指すことを掲げて、提案項目として(案)提案1と(案)提案2を統合したものを『新案1 学ぶ』、(案)3はそのまま残して『新案2 文化財』、(案)提案4に(案)提案5を吸収させて『新案3 イベント』と項目だてし、この1~3すべてにかかる項目として『新案4 情報発信』、(案)提案7は項目だてせず、内容をどこかに入れ込むとよいのではないか。

参) 『歩きたばこ』について、これだけこの会議で議論があることは、川西が好きだということの裏返しである。歩きたばこをコンテンツの一つに入れてもよいのではないか。

コ) 歩きたばこは、タイトルの表現の仕方を変えて、きれいな街を作るということの中

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

の一つの例えとして入れてもよいのではないか。

(案) 提案1 『市民が歴史や文化財に対して今まで以上に誇りや愛着をもち、市の歴史を自慢できるまちを目指す』について

参) 提案の実現に向けて、それぞれが行うことの中で、『お土産用途のお菓子の作成や川西の歴史を紹介するパッケージなどを使ってもらうように営業する』と書かれているが、実は、特産品(いちじくジャム、いちじゅくカレー、きんたくんのマークが入ったクッキー、イチジクケーキなど)はある。しかし手にすることがない。それは販売されている店が限定されているからだと思う。商品を新しく作るより、今ある商品を市民に手に取りやすいように広めるようにした方がよい。

参) いちじくでいうと以前いちじく畑だった場所が、宅地や駐車場になって、生産量が減少している。また、生産者も高齢化している。いちじくなどを売り出していくなら、生産量を確保する方法も考える必要があるのではないか。

コ) 1班でまさにその内容での議論が出ている。今後特産品として活用していくなら考える必要がある課題だと思う。現状は、特産品を使った商品が知られていないので、先ほど意見があったように、まずは、みんなに知ってもらう、手に取ってもらう環境を増やすことが重要ではないかと思う。

(案) 提案2 について 『市民が日常の中で川西の歴史や文化を「知る場」をつくり、かつ楽しく学べる環境を作る』について

参) 小中学校の夏休みの課題に「川西の歴史」を入れるのは、小中学生の身からすると宿題が増えることになる。やらされ感があると頭に入ってこない。宿題にするのはよくない。やりなさいではなく、子どもがやりたくなるような工夫をしてほしい。例えば、自由研究でちょっと取り上げてみようかなと思った時に、身近に行ければよい。

参) 自由研究の課題に困ることがあるので、具体例に『川西の歴史について』を表示すると、歴史好きな子もいるので、取り組む子もいるのではないか。課題として押し付けるのではなく、子どもが、選択できる余地のあるように紹介していくのがよいと思う。

参) 川西カルタ大会を学校行事として行うのもいいが、カルタをクラスに1つ設置して雨の日など暇な時に遊べるようにしたらよいと思う。

参) 提案の中に学校との連携した取り組みがある。地域の歴史を子ども達に知ってもらうことは大切であるが、学校は忙しい。地方行政が学校にどこまで協力を要請でき、学校側がどこまで受け入れてくれるのか。学校の協力をどう得るかについても考える必要があると思う。参) 自分が小学校の頃に史料館に行き、話を聞いて館内をまわったことがある。今は、地域の歴史、文化に詳しい人を学校に招いて、直接話を聞く機会がないのではないか。

参) 教員をしていた経験がある。小学校3年生のカリキュラムの中に基本的には地域学習があるが、郊外学習で地域の神社に行ってお話を聞かせてくれる人がいれば、

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

先生としてはラッキーである。何をしたいかわからない。必ずしも川西に住んでいる先生が川西の学校で教えているわけではなく、他のまちからやってきて、川西のことを知らないのに、川西のことを教えなければいけない状況になることがある。その時に地域の協力があつたら嬉しい。ただノルマとして課されてしまうとカリキュラムとして難しくなってしまうので、先生がヘルプを出したい時に、サポート隊というバンクがあつて、教育委員会や学校と繋がっていれば、教え方に困ったときに相談できる。

総合的な学習の時間は小学校3年生からカリキュラムに入っていて、社会科の授業と関連づけて地域調べをすることがすごく多いが、資料が少ない。インターネットだと子どもが読むには読解力が限界、市の広報誌も大人向けに書いてあるので、漢字が読めない。子ども向けの資料があつたら授業としてやりやすくなる部分がたくさんある。

先ほど話があつたように強制されて辛いと思うのは学年が上がってきてからで、小学校の低学年から中学年くらいは、何をやっても楽しい子がすごく多いので、そういう時期に地域のことを学べるようにすると、地域のことをグーッと吸収してくれると思う。

教育委員会が方針をだす。それに従って各学校の学年で動く。ただ、市の先生方が『市の方針として、川西を大切に子どもを育てましょう』と言っても、その先生により限界はあるから差はできてしまう。

参) 先生が悩んだ時に駆け込めるところが必要で、サポート隊があればよい。

コ) 整理すると、小学校3年生で地域の学習をしましょうというのは学習指導要綱にある。ただ、地域学習の中身については学校によって違いがある。教育委員会とボランティアガイドの会などと一緒に教員をサポートしていくことは可能ではないか。先生が全部分かることは不可能だと思う。地域の人に話を聞けるところがあるのがよいと思う。

参) 子どもむけのハイキングのイベントがあればよいと思う。

(案) 提案3 『川西にある歴史・文化資源(多田神社、三ツ矢記念館、加茂遺跡、勝福寺古墳など)をより身近に感じられるよう活用の仕方を工夫する』について

参) その他の意見で「平野ジャパンサイダー」と記載しているが、正確には「三ツ矢印平野シャンペンサイダー」である。しかし、シャンペンという言葉は使えない。

コ) 独自サイダーの売り出しに表現を変える。

参) 提案の実現に向けて、それぞれが行うことで、『三ツ矢サイダーミュージアム建設』と書かれている。池田のカップヌードル記念館はカップラーメンが作れるのがよい。サイダーは川西で製造していないが、ミュージアムでは自分でサイダーを充填できたら楽しいと思う。ペットボトル充てん施設を作れたら、経済も循環すると思う。きんたくん水も川西市内で製造できたらいいと思う。

参) キングコングの西野さんにクラウドファンディングの広告塔をお願いできたらよい。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

参) 川西市には、塩川氏など、源氏以外にも活用できそうな資源が多くあるので、それらをうまく使うことも必要だと思う。

コ) 提案3では代表的な施設などを記載しているが、川西にある歴史文化にまつわる人物や施設について掘り起こすことも必要ということですね。

(案) 提案4『他の市町村・企業等との連携や、市にある資源をつなぎ合わせてストーリーを作り上げることで、さらなる付加価値をつける』について

参) 提案の実現に向けて、それぞれが行うことで、『郷土館などロケ地となりそうな場所をメディア作成会社に売り込む』と書かれているが、旧平安邸、旧平賀邸はロケ地に実際に使われているので、ロケ地に使われたことをPRしていく。

参) 青山大学と連携して、歴史常設展をしてもらうのはどうか。

(案) 提案5『源氏まつりを私たち市民が「市のお祭り」と感じられるように工夫する』について

参) 具体的な施策提案『源氏コンテストの開催』について、コンテストの参加者を学校や学年で1人出すなど、割り当て制にしてもよいのではないか。知人が参加すると来場者が増える。

案) 提案6『情報の伝え方』について

参) アプリや市のホームページもそうだが、見にくいので、市でフリーWiFiを作り1時間無料で使えるようにして、ログイン画面時に川西の紹介画面が出てくるとすると、必ず目にふれるようになる。

参) アプリを作るのであれば、楽しみながら情報を入手できるように工夫してほしいし、川西市の人気アップにつなげてほしい。

コ) 以前の議論でもしたが、川西市は若い世代の転入者が多いので、若い人向けにはアプリが有効なので、アプリやIT技術を充実させれば、効果的な情報発信ができるのではないか。

参) 川西市は自動運転技術を活用した次世代型の移動サービスの実証実験をすすめることになっているが、将来的に自動走行中にGPSを通じて周辺の史跡などの情報が地図に表示されるようになるとよいと思う。

参) 現在市内に設置されている『この先通り抜け禁止』『不法投棄禁止』などの看板が、錆びていたり、剥げて見えないものがあるので補修が必要である。

参) 道案内の看板通りに進んだら、道に迷った。看板の整備が必要である。

新しいものを作る前に、今の状況をよくしたい。

案) 提案7『歩きたばこなどのルール違反をしない、させない環境を作るなど、市民みんなで自分の住む地域を大切にする文化をつくる』について

参) この会議で議論になり、観察するようになった。家では吸わせてもらえず、家を出てからバス停に行くまでに吸っている。ポイ捨、受動喫煙を防止したい。マナーを守る

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

ることが大切である。

参) ロンドン、パリも歩きたばこが多いが、好きなサッカーチームの方に吸殻を捨てる『投票灰皿』の設置で、ポイ捨てが減っている。灰皿に捨てたくなる仕組みは面白い。

参) 歩きたばこ禁止を条例で縛り付けるより、きれいな環境を整えていく市民性を提案した方がよいのではないか。

観光に来てもらうのなら綺麗な街にしておくべきである。市民みんなで住む街を綺麗にする文化を作ることが大切である。

参) 川西市の市たばこ税の収入は6億4千万で、貴重な財源である。吸う行為とマナーを分けて考えていくべきである。

参) 他の市では、駅前に喫煙所を設置したり、バスや電車内で「歩きたばこをやめましょう」というアナウンスをしているからか、歩きたばこをしている人はあまり見ない。そういった工夫をするだけで、減っていくのではないか。

(その他意見)

・ボランティアポイントの創設について

参) お掃除や遺跡の案内のボランティア参加をポイント制にして、たまったポイントを地域のカフェやお店で使える仕組みがあれば、お店を知ってもらうきっかけになり、売り上げにも貢献できる。

ポイントは個人や団体でも貯められるようにする。例えば、自治会で掃除ボランティアに参加すると自治会にポイントが付与されるのも面白い。ポイントで会議室などを借りられる仕組みなどがあってもよい。

コ) 川西で健康ポイントを貯められる制度がある。

参) 私も参加して、ポイントをためて商品券をもらった。

参) いい制度ですね。

参) まちの宝物サポート隊が企画するイベントに参加したらよりポイントがつくようにしてはどうか。

参) イベントの周知のため、宣伝媒体をポイント還元のお店に置いてもらうなど協力してもらう。

参) ポイントや情報をアプリで管理できればよい。

コ) すでに健康ポイントの仕組みを持っている市なので、チラシ一枚でできるのではないか。万歩計のような初期投資もいらないのでやりやすいかもしれない。

こういったものを行政がすると公平性がどうかという意見がでてくるが、例えば、このポイント制の仕組みをサポート隊が作って、それに対して市が補助金を出さず形にすると自由に活動しやすい。この会議が終わった後、集まって有志でアプリを作るなどやってみてはどうか。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

・日本遺産登録の申請について

参) 川西は『源氏発祥の地』というすごいことが見つけれられた。日本文化遺産を募集しているの、申請したらよいと思う。『日本遺産への申請を目指す』ことに全員が賛成

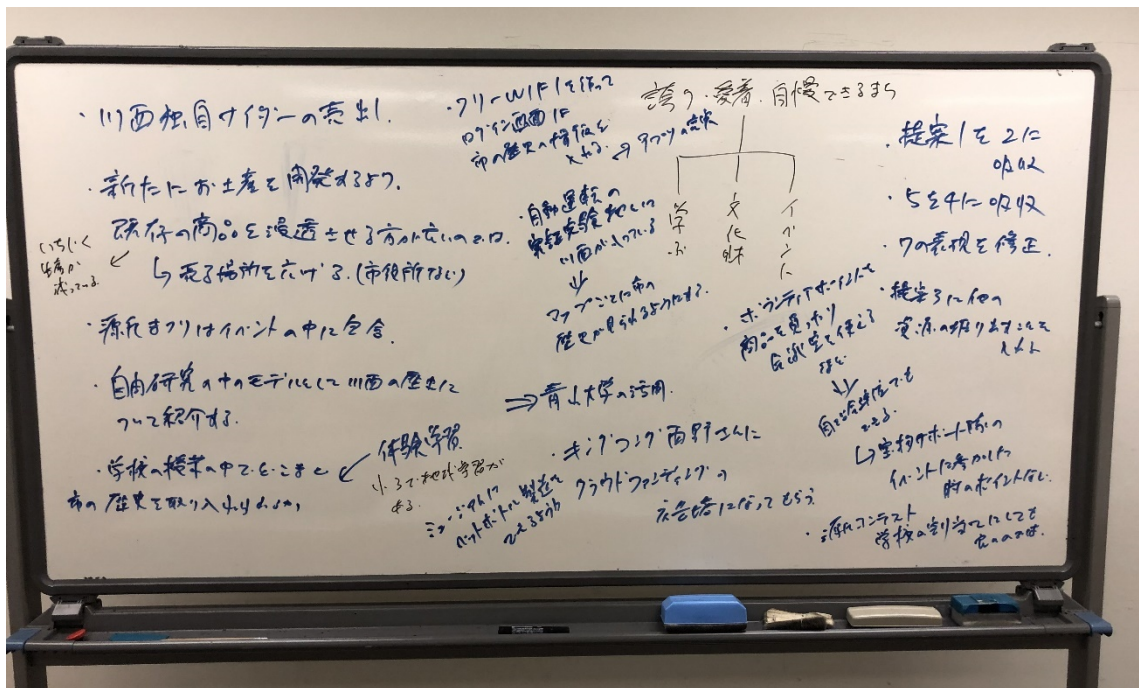
・川西サポート隊について

参) 会議に参加して、参加者の I Love 川西がすごく伝わってきた。これを、We Love 川西にするようサポート隊で実行していきたい。

・市民会議の話をする事について

参) 私たちのようにこの市民会議に参加した人が、この会議の内容について、周囲の人に話したりすることが、周囲の人にとっては、市のことを考えるきっかけや宣伝になると思う。また、他の人が知っている情報も聞くことでも勉強になると思う。そうやって輪を広げることも重要だと思う。

ホワイトボードの写真



次回の会議に向けた準備

次回の会議の目標

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

次回の会議に向け準備する資料等

備考 (その他、記録すべき事項を適宜追加)

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者